



平成 22 年 6 月 25 日
堺市立東図書館

はじめに

日本の代表的な大型辞典である、『日本国語大辞典』『大漢和辞典』を通して、辞書を引く楽しみを味わいましょう。

理想的な国語辞典

- 1 その人がある言葉を引いたとき、それが必ず載っているということ
- 2 ただ言葉が載せられているだけでなく、その言葉について知りたいと思う情報が的確に示されている
- 3 その言葉が実際にどう使われているかということを示す例を数多く添えている

松井栄一(『日本国語大辞典』の編集者)

日本の辞書前史

『和名類聚抄(わみょうるいじゅうしょう)』

源順(みなもとのしたごう)編 平安中期の承平年間(931-938)成立

当時の知識人なら必ず目を通した本

特色 漢語を表出してその出典と和名を示す

清少納言と和名類聚抄

「星はすばる、ひこ星、夕づつ。よばひ星すこしをかし、尾だになからましかば、まいて」

(星は昴がいい。彦星。宵の明星。よばい星は少しおもしろい。尾さえなかったとしたら、

ましていっそうすばらしいのに)

『枕草子』(『日本古典文学全集 18』小学館刊)

『言海』

大槻文彦著 1875年(明治8)起稿 1891年(明治24)刊行

特色 日本ではじめての近代国語辞典

「収載語の豊富と語釈の精確とをもって、日本の辞書史上に不朽の足跡を残す労作」

(『世界大百科事典』平凡社刊)

2つの大型国語辞典

『日本国語大辞典』(小学館)

- ・三代(松井簡治－松井驥(き)－松井栄一)続いた編集作業
- ・『大日本国語辞典』(松井簡治、上田万年(かずとし)共編。大正4～8年)を継承
- ・昭和36年編集委員会発足 昭和51年に初版、平成12年に第2版を出版
- 【特色】 語彙・用例とも日本一(初版45万項目 75万用例・第2版50万項目 100万用例)
「その意味について、もっとも古いと思われるもの」を古いもの順に並べる

『大漢和辞典』(大修館書店)

- ・諸橋轍次著 昭和35年完結。昭和59年・平成元年に修正版、平成12年に補巻刊行
- ・世界最大の漢和辞典(見出し数約5万 熟語数53万余)
- ・4分の3世紀に及ぶ編纂事業
- ・辞書作りに伴う犠牲 鈴木一平社長と諸橋轍次
- ・どんな時に使うか
 - 本来、漢籍(中国の古典)を読むために作られた辞典(大修館書店のHPより)
 - 漢字の意味や熟語を調べる
 - 名句や詩を調べる
- ・漢字にたどりつくまで
 - 読み方がわかっている場合 索引で調べる
 - 読み方がわからない場合 部首と画数から調べる

その他

『新潮日本語漢字辞典』(新潮社)

新潮社編 平成19年刊行

- 【特色】 日本語由来の語彙を収集 ⇄ 漢籍由来
日本の近・現代文学など新しい用例を採用
解字に「白川静」説を採用

『大辞林』(三省堂)

松村明編 昭和63年初版、平成18年第3版発行

- 【特色】 ほとんどの見出し語にアクセントを表示
巻末付録の充実